炭酸泉を核にした国際交流による観光振興

91 なおいり 直入

（大分県竹田市）

注目 ポイント ！

○ 日本一の炭酸泉を活かした個性的な温泉地形成。

○ 温泉を核にした国際交流によるまちづくりと観光振興。

入込客数が15年間で約10倍に！
約76,000人（H元）から約721,000人（H15）へ

丸山公園から長湯温泉の遠望

これまでの経緯

昭和６０年（１９８５）	入浴剤メーカーの調査により日本一の炭酸泉が証明される。
平成元年（１９８９）	「全国炭酸泉シンポジウム」の開催。 第一次表敬訪問団の訪独（15名）。国際交流開始。
平成　２年（１９９０）	国際化推進グループ「西方見聞録」結成。
平成　４年（１９９２）	国際イベント「西洋と日本の温泉文化フォーラム」を開催。 ドイツ物産フェアーの開催。 経済視察団やコーラスグループなど民間団体の相互交流がはじまる。
平成　５年（１９９３）	飲泉場「COLONADA」の完成。
平成　６年（１９９４）	直入ラベルのドイツワイン輸入事業がスタート。
平成　８年（１９９６）	貿易振興会議が発足し、ワインの貿易事業が本格化する。
平成１０年（１９９８）	温泉療養文化館「御前湯」の完成。国際姉妹施設の締結。
平成１６年（２００４）	バートクロツィンゲン市と姉妹都市の締結。 国際イベント「炭酸泉と健康フォーラム」の開催。

◇◇ コラム ◇◇

観光地というよりひなびた湯治場であった長湯温泉。国際的視野に立った個性的な温泉地への転換を目指し、日本一の炭酸泉を活かした温泉地の活性化、温泉を飲むという飲泉文化の浸透などに取り組み、交流人口が飛躍的に延びた。

観光カリスマ
首藤　勝次氏

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

炭酸泉と健康フォーラム

ドイツ国バートクロツィンゲン市とのローカル国際交流15周年記念事業として平成16年に実施。

貴重な炭酸泉の効能を療養的見地から検証し、温泉療養都市、長湯温泉の魅力を内外にアピール。

フォーラム

御前湯

温泉療養文化館「御前湯」

江戸時代から伝わる名門の湯長湯温泉のシンボル施設として平成10年にオープン。当初の予想をはるかに上回る年間13万人が訪れる。バートクロツィンゲン市の温泉館「ビタ・クラシカ」とは国際姉妹施設として提携。

飲泉場「COLONADA」

ヨーロッパが600年以上をかけて育んできた温泉を飲む文化は長湯でも存在した。飲泉文化の再生をめざして最初に整備された飲泉場がこの「COLONADA」。

COLONADA

ドイツ生まれの直入ラベルワイン誕生

ドイツ国バートクロツィンゲン市との連携により、ドイツで直入ラベルのワインが醸造されるようになった。年間13,000本以上輸入しており、ドイツとの経済交流の柱となっている。

ドイツワイン

問い合わせ先

○竹田市直入総合支所商工観光課
Tel：0974－75－2211　http://www.city.taketa.oita.jp/